

世界に翔く宮崎牛

1994年3月号

発行所
宮崎県肉用牛協会
財団法人 宮崎県畜産会
No.2



宮崎県肉用牛振興大会 (宮崎市民会館 H. 6. 2. 24)

3月号目次

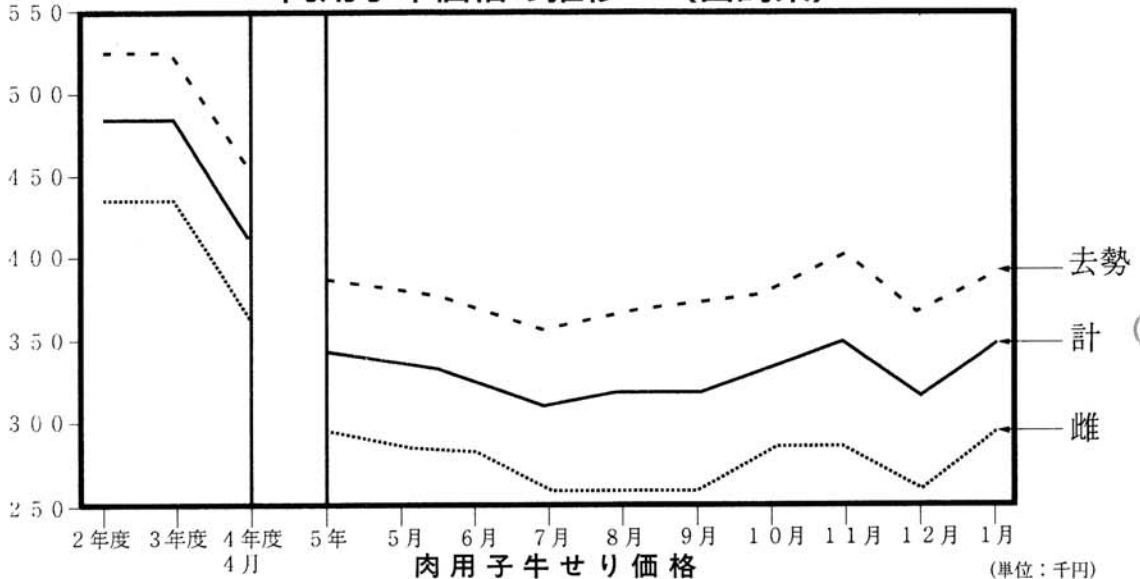
価格情勢…… 2
事業紹介…… 3
トピックス…… 4
技術情報…… 7
現地情報…… 8

今月の飼養管理ポイント……10
おたずねします……10
今後の行事計画……11
一服放談……12
編集後記……12

● 価格情勢 ●

単位：千円

肉用子牛価格の推移 (宮崎県)



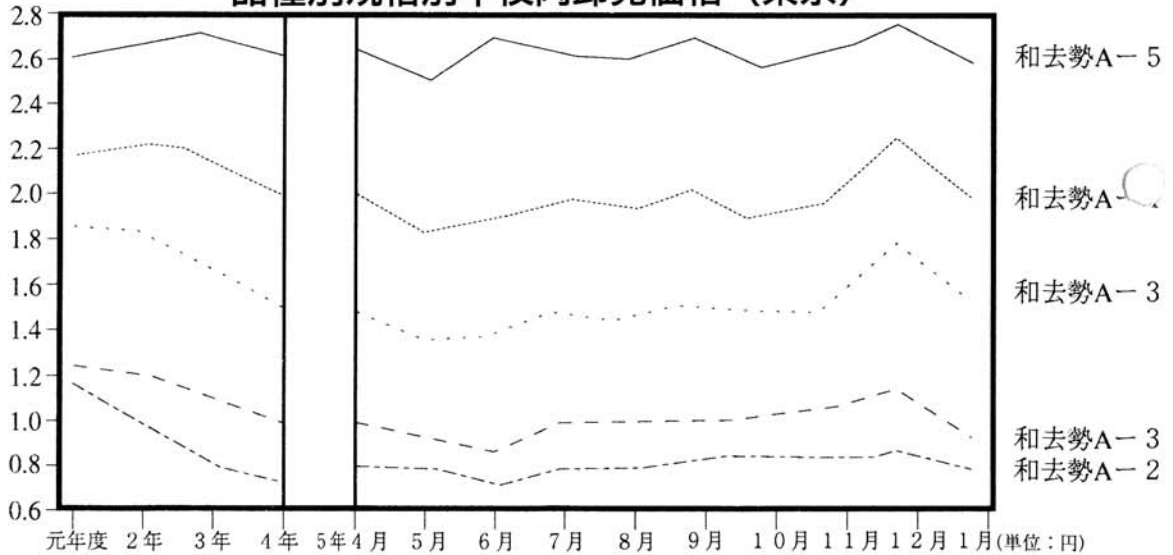
肉用子牛せり価格

(単位：千円)

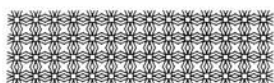
	2年度	3年度	4年度	5年4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
雌	438	436	362	294	285	282	260	260	257	282	284	259	292	283
去勢	526	527	458	389	381	372	355	366	370	377	398	365	388	387
計	485	485	413	344	337	328	309	317	316	333	346	314	345	338

単位：千円/Kg

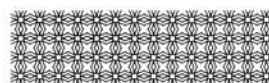
品種別規格別牛枝肉卸売価格 (東京)



	元年度	2年	3年	4年	5年・4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月
和去勢A-5	2,611	2,682	2,711	2,643	2,637	2,513	2,687	2,625	2,589	2,650	2,539	2,630	2,751	2,571
和去勢A-4	2,182	2,226	2,178	2,024	1,964	1,796	1,896	1,970	1,913	1,962	1,856	1,926	2,190	1,960
和去勢A-3	1,889	1,862	1,745	1,547	1,493	1,395	1,404	1,496	1,462	1,513	1,489	1,526	1,736	1,529
乳去勢B-3	1,280	1,247	1,116	1,029	1,012	956	886	1,014	1,006	1,006	1,051	1,060	1,126	935
乳去勢B-2	1,224	1,020	842	772	836	819	753	823	818	855	849	847	880	778



事業紹介



——肉用子牛生産者補給金制度——

平成5年度保証基準価格及び合理化目標価格

区分	黒毛和種	褐毛和種	乳用種	その他の肉専用種
保証基準価格	304,000円	280,000円	164,000円	211,000円
合理化目標価格	267,000円	246,000円	134,000円	173,000円

平成5年度平均売買価格

区分	黒毛和種	褐毛和種	乳用種	その他の肉専用種
第1四半期	311,400円	193,100円	98,400円	99,300円
第2四半期	313,000円	211,300円	97,800円	132,800円
第3四半期	319,700円	220,300円	98,400円	92,800円

年度別生産者補給金交付額（平成5年度は第3四半期分で交付見込額）

（単位：頭、千円）

区分	頭数	乳用種	頭数	褐毛和種	頭数	その他の肉専用種	総額
平成3年度	11,908	288,471	—	—	29	2,301	290,772
平成4年度	18,105	904,360	—	—	30	2,614	906,974
平成5年度	16,228	1,009,860	27	1,852	—	—	1,011,712
合計	46,241	2,202,691	27	1,852	59	4,915	2,209,458

※平成4年度（第4四半期分）及び平成5年度（第1～3四半期分）は概算

——子牛生産拡大奨励事業——

事業の概要

1 目的

肉専用種繁殖経営における子牛生産拡大意欲の向上を図ることにより、牛肉生産の基礎となる繁殖牛頭数の拡大と経営の維持強化を図ります。

2 事業の内容

(1)子牛生産拡大奨励金の交付

肉専用種雌牛頭数の増頭者に対し、拡大奨励金を交付します。

品種	単価(子牛1頭当たり)	発動基準
黒毛和種	28千円	35万円を下回った場合
褐毛和種	25千円	32万円を下回った場合
その他の肉専用種	19千円	24万円を下回った場合

(2)子牛生産奨励金の交付

肉専用種雌牛頭数の維持者に対し、生産奨励金を交付します。

品種	単価(子牛1頭当たり)	発動基準
黒毛和種	18千円	32万円を下回った場合
褐毛和種	16千円	29万円を下回った場合
その他の肉専用種	12千円	22.1万円を下回った場合

（発動基準は、肉用子牛生産者補給金制度において定められる指定市場の平均売買価格（四半期ごと））

(3)事業実施計画 平成5年度

繁殖農家	事業参加農家	拡大計画農家	維持計画農家			
戸数	戸数	割合	戸数	割合	戸数	割合
19,003	17,759	93.5	3,132	16.5	13,857	72.9

（平成6年2月現在）

—— 肉用牛肥育経営安定緊急対策事業 ——

1. 事業の概要

(1) 牛肉自由化関連対策の一環として昭和63年度に措置した事業です。

(2) 緊急対策

肥育牛経営の経営継続を支援するため、肥育牛1頭当たりの平均推定所得が家族労働費を下回った場合、肥育牛を導入した者に対し導入等の経費を軽減するための助成金を交付します。(四半期ごとに国が発動を

指示)。

① 助成金単価 肉専用種導入 2万円
乳用種導入 1万円

② 事業実施期間 平成6年3月末まで

(3) 緊急特別対策

乳用種肥育牛1頭当たりの平均推定所得がマイナスとなった場合、(2)の緊急対策助成金に加え、1頭当たり1万円を上乗せ交付します。

2. 事業の実施状況(発動状況)

年 度	2 年 度			3 年 度			4 年 度			5 年 度					
	第1	第2	第3	第1	第2	第3	第1	第2	第3	第1	第2	第3			
四 半 期															
乳 用 種	緊急	×	○	×	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	×
	特別	-	-	-	-	○	○	×	○	○	×	×	×	×	×
肉専用種	緊急	×	×	×	×	×	×	×	○	○	×	○	○	○	○

3. 本県の交付実績

年 度	交付頭数(頭)	交付金額(千円)
2 年 度	7,368	58,886
3 年 度	16,571	307,740
4 年 度	29,270	502,420
5 年 度	19,545	312,460

※ 4年度及び5年度(第1・2四半期分)は概算

平成 6 年度宮崎県一般会計当初予算決まる

平成6年度本県の一般会計当初予算案が決まりました。新年度の重点施策の中でも、特に緊急対応を迫られているのが、農産物の自由化対策です。しかしながら、政府の自由化決定が予算編成段階だったこともあり、自由化が本格化する7年度に備えたより具体的対策は6年度補正を中心に対応する予定です。平成6年度農政水産部新規事業のうち肉用牛に関係した予算は次のとおりです。

① 農水産物輸入自由化対策総合推進事業

(15,864千円)

ガット・ウルグアイ・ラウンド合意の本県農水産業への影響を分析し、総合的な対策を検討するとともに、農水産業関係者の意欲向上を図る。

② 農水産物価格安定対策検討事業

(1,005千円)

農水産業を取り巻く環境の急激な変化や輸入自由化等に対応していくための価格安定対策の在り方等について調査検討する。

③ 宮崎牛品質向上優良肥育素牛保留事業

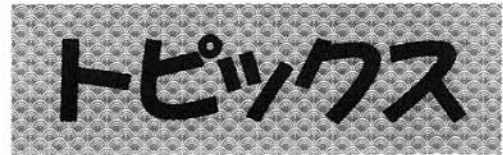
(18,750千円)

優良肥育素牛の導入費に対する金利助成を行うことにより県内保留を促進し、宮崎牛の品質向上と銘柄確立を図る。

④ 肉用子牛価格安定対策事業

(261,270千円)

肉用牛生産農家の経営安定を図るため、宮崎県肉用子牛価格安定基金に対する生産者積立金及び基金協会が生産者補給金交付のために借入れた借入金の償還に対し助成を行う。

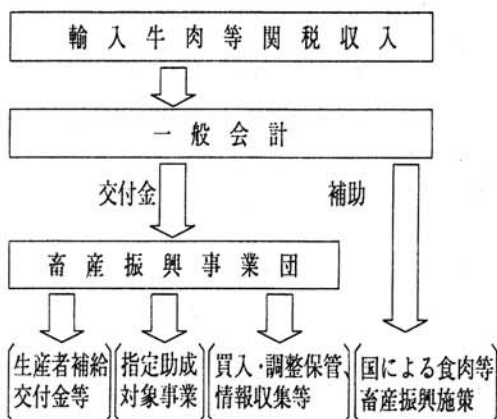


平成 6 年度国の農林予算案決まる

平成6年度国の農林水産予算案が決定されました。肉用牛関係では、肉用子牛等対策費

として前年と同額の1,006億円が確保されました。これは、肉用子牛生産者補給交付金、指定食肉に係る買入・調整保管、指定助成対象事業等に要する予算です。畜産活性化総合対策では、158億円が確保されました。これは、畜産物の生産から流通・消費に至る対策を地域の特性に即しつつ、総合的に実施する総合・メニュー事業です。

肉用子牛対策等の仕組み



畜産活性化総合対策における新規・拡充事業の概要

①畜産経営技術高度化支援指導事業

322(0)百万円

幅広い分野の専門家からなるコンサルタント団の設置や畜産試験場の活用等による指導体制及び指導方法・内容の充実を図ることにより、畜産経営体の経営・生産技術の高度化に対する支援・指導を総合的に推進する。

②家畜雌雄産み分け技術利用促進事業

66(0)百万円

家畜受精卵を活用した雌雄産み分け技術の利用の促進を図るため、施設等の整備及び技術者の養成を行うとともに、雌雄産み分け技術による生産をモデル的に実施する。

③肉用牛品質向上対策事業 306(0)百万円

ア肉用牛群資質向上対策 263(0)百万円

繁殖雌牛改良組合を組織化し、肉用子牛生産者補給金制度の個別識別システムを活用して枝肉成績を組織的に取りまとめ、繁殖経営にフィードバックするとともに、枝肉成績等に基づき資質の高い繁殖雌牛群の

整備を推進する。

イ交雑種肉用牛品質向上対策 43(0)百万円

交雑種肥育牛の産肉性を調査することにより、交雑種生産用として高能力を発揮する種雄牛を効率的かつ早期に選定し、優良交雑種素牛を生産するための体制を整備する。

④国産食肉産地体制整備事業 872(0)百万円

輸出国に劣らぬ処理コストで、斉一性・利便性の高い国産牛肉を供給する効率的な処理体制を確立するため、地域の特性に応じた産地づくりの構想を作成するとともに、省力化を飛躍的に進め得る機械を装備した大規模な食肉センターの整備を推進する。

⑤自給飼料生産拡大対策事業583(505)百万円

粗飼料生産組織体を育成し、この下で、転作田、水田裏、耕作放棄地等での集団的飼料作物生産、飼料生産利用機械施設の整備等を引き続き推進するほか、新たに、草地における草種・草性の改良等による作期調整を通じ、作業体系の改善を図るための新生産システムを確立する。

注) () 中は前年度予算

大阪市で農畜産物流通懇話会開催される

平成 6 年 1 月 25 日、大阪市で京阪神地域の食肉市場、量販店、外食産業等の関係者を招いて、「平成 5 年度宮崎県農畜産物流通懇話会」が開催されました。

畜産物の生産、流通及び販売上の課題等について意見交換を行い、産地の生産販売対策に反映させようというものです。

まず、外食産業から見た牛肉の消費動向について、2 業者の卓話を聞いた後、県と「くみあい食肉」が宮崎牛の現状や処理状況について説明し、熱の入った討議が行われました。

宮崎牛の良さは、中卸などのプロには分かっているけれども、一般消費者には十分に理解されていないようであり、ブランド化に向けた今後の取り組みが示唆されました。

消費地側は、当然のことながら安い価格で質の良い物を望んでいます。大消費地で有利

な販売を行うためには良い物を定量、定質で送り出せる体制作りをすることが、生産振興指針になると改めて実感させられました。

西ノ原牧場の受精卵移植への取り組み

小林市にある西ノ原牧場は、昭和57年に設立され、現在では黒毛和種を主体に肥育牛2,800頭、繁殖牛240頭が飼養されています。

牧場では、これまで肥育牛を中心に経営が行われてきました。しかし近年では、厳しい肉用牛情勢をふまえ、繁殖から肥育までの経営内一貫体制（経営内における肥育素牛の一部確保体制）の確立が進められています。

その主力として期待されているのが、平成2年に開設した受精卵移植研究所です。研究所では、専属の獣医師が中心となり、当社における過去の枝肉成績等を基に選定した15頭のドナー牛から受精卵を採取し、100頭の受卵牛（うちF1牛：50頭）に移植しています。また、この受精卵を活用し、地域の酪農家とタイアップした、新しい肥育素牛の確保対策にも取り組んでいるところです。

平成5年度の和牛産肉能力間接検定



検定 終了 年度	名号	血統		産地	体重(kg)		D・G (kg)	枝肉成績				産肉能力概評	
		父	母の父		開始時	終了時		枝肉 重量(kg)	ロース 面積(cm ²)	皮下脂肪 厚(cm)	脂肪交雑 (BMS)	優れた点	惜しい点
5	谷安	安寺土井	田森土井	兵庫県美方郡	235.5	546.9	0.86	330	46	1.6	2.3	脂肪交雑 皮下脂肪厚	ヤヤ枝重
	照安	菊照土井	安谷土井	兵庫県美方郡	231.7	540.7	0.85	317	47	1.9	2.6	脂肪交雑 皮下脂肪厚	枝重
	隆秀	誠隆	糸秀	小林市	265.5	584.9	0.88	348	47	2.0	2.1	枝重	
	富隆	誠隆	富栄	小林市	265.1	581.7	0.87	352	46	2.8	1.8	枝重	脂肪交雑
	栄峰	富栄	香峰	畜試(酪農公社)	260.3	580.8	0.88	354	44	2.8	2.8	脂肪交雑 枝重	ヤヤロース面積
	菊久	菊城	美福10	都城市	248.4	575.2	0.90	352	50	2.1	2.9	脂肪交雑 ヤヤロース面積 枝重	
	平	均(6セット)			251.1	568.4	0.87	342	47	2.2	2.4		
		平成5年度前期全国平均(38セット)			256.5	566.9	0.85	337	45	1.9	2.0		

今年度の間接検定は、脂肪交雑についてみると、新法になってからの49頭の検定終了牛の中で、「菊久」が第3位、「栄峰」が第4位、「照安」が第5位の好成績を収めました。

これは、種雄牛造成の手法として、血統構成や体型に加えて、父牛と同様、母牛の産肉能力も積極的に取り入れるようになった成果ではないかと考えられます。

「菊久」の母牛は育種価推定値が非常に高い。

「栄峰」の母牛は県有のスーパードナーである。

「照安」「谷安」の母牛はファミリーに多くの名牛がいるといったようにいずれの種雄牛も父親からのすぐれた遺伝子とともに母牛の側からも良い遺伝子をたくさん受けついでいるのではないのでしょうか。

ただ、このように条件さえ揃えば総ての個体に期待される能力が得られるとは限らないようですから、さらに検討を重ねて、優秀な種雄牛を安定的に確保できるよう情報の収集や技術確立に努めていく考えです。

延岡小学校生牛肉パンフレット作成

延岡小学校の4年生の皆さんは、宮崎県の代表的農産物である「牛肉」をより深く知るために、飼育頭数や出荷状況、さらに海外輸出先まで詳しく調べました。そして、それらを図や表で分かりやすくまとめた「牛肉パンフレット」を作成しました。また、クラスで発表会を行い、牛肉について皆さんで深く研究されたそうです。牛肉生産に対する宮崎県の役割を勉強されたことで、郷土に対する誇りと食料の大切さが生徒の皆さんの心の中に芽ば

えてくれたことと思います。

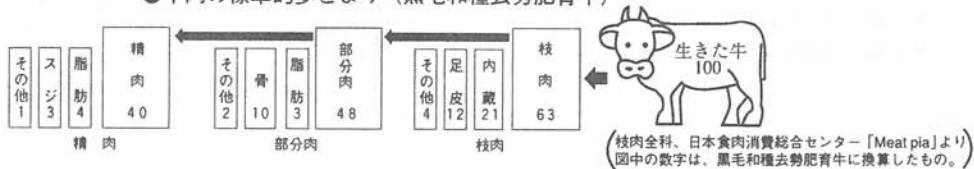
この情報誌で、先生方の御指導と生徒の皆さんの研究に盛大な拍手をお送りします。

私達肉用牛に関係する者一同は、諸外国の牛肉に負けないう「より美味しい牛肉」生産に今後とも励みますので、皆さんも一生懸命勉強に精進して下さい。



● 技術情報 ●

●牛肉の標準的歩どまり（黒毛和種去勢肥育牛）



“1頭の肥育牛から……”

1頭の肥育牛をと畜・解体することにより、一体どの程度の精肉を得ることが出来るのでしょうか？

生きた牛を100とした場合、と畜、内臓・足皮等の除去後の枝肉は63となります。更に、脂肪や骨、スジ等を除去すると、精肉は40となり、1頭の肥育牛からは、半分以下の精肉しか得ることが出来ないのです。

黒毛和種去勢肥育牛を例にとると、生体重が650kgの場合、枝肉重量で約410kg、骨等を除去した部分肉で約310kg、スジや脂肪を取り除いた精肉では約260kgの利用可能なお肉を得ることが出来ます。更に、ヒレやロース等の高級部位は、わずか60kg程度しか得ることが出来ないため、非常に高い価格で私たちのもとへ届くこととなります。

受精卵移植を活用した種雄牛造成の実施状況

本県で行っている受精卵移植技術を用いた種雄牛造成の状況をお知らせします。

まず、産肉成績、繁殖成績などに基づき、優秀な供卵牛を選定し、畜産試験場に繋養し

ます。そして、宮崎県産肉能力検定委員会で協議された交配計画により受精卵を採取します。この技術部分は、畜産試験場が行います。これまで、1供卵牛当り年に約3回採卵を行い、1回当り約5個の受精卵を採取しました。

採取した受精卵は、都城市御池にある宮崎県酪農公社の受卵牛に移植します。これまで613頭に移植を行い、289頭が受胎し、受胎率は48%となっています。

その結果、213頭（♂111，♀102）の子牛が生まれ、このうち40頭が直接検定を受検し、21セットが、きょうだい検定を終えています。

こうして選抜した中から、種雄牛候補を育成し、後代検定に達したものは11頭で、その第1号が「栄峰」号です。

このシステムにより、「栄峰」号に続く高能力種雄牛の誕生が期待されています。

繁殖牛飼料「しもふりファイバー」 給与上の留意点

「しもふりファイバー（混合飼料＝粗飼料、濃厚飼料を混合したもの）」を利用する経営が増えているようです。

この飼料給与体系は労力不足及び、飼料畑不足の解消、更に規模拡大を図る経営に有利

です。

しかし一部で、「しもふりファイバー」を利用した飼料給与方法に対する理解が不十分なことが原因で繁殖率が低下している事例がみられます。

この飼料給与に際しては絶対守らねばならない事項があります。そこで、再確認の意味を含めてその要点を述べます。

- ①必ずマニュアルどおりに各生理期（維持期、妊娠末期、授乳期）に応じた給与量を守ること。群飼の場合はスタンション給与、つなぎ給与等を行い正確に給与する。
- ②粗飼料（とうもろこし、イタリアンライグラス等）等、他の飼料と組み合わせる場合は正確な飼料計算をして給与する。
- ③ボディコンディション（脂の付き具合）をいつも把握しながら給与量を加減する。

特に②については最寄りの農協・農業改良普及所もご相談を受けますので、よろしくお願ひします。

現地情報

黒毛和種不妊牛の治療牧場

小林市では、1,590戸の農家で23,000頭（繁殖めす牛8,300頭）の肉用牛が飼養されており、年間約6,000頭の子牛を生産しています。

コスト低減を図るため、当市では、一年一産を目標として受胎率の向上に取り組んでいます。

しかし、中には、非常に受胎しにくい牛がいます。そこで、これらの不妊牛45頭を、昨年6月から市営牧場（乳牛育成牛を主体に年間60～80頭を周年放牧中：35ha）に試験的に入牧し、治療することにしました。

農家から連れてこられた牛は、パドックで4～5日間、慣らし飼いをした後、放牧場に出します。放牧後1カ月もすると、入牧時に540kg前後と肥りぎみであった体重も、470～480kgに減少し、発情が見られるようになります。

この段階から、農業共済組合の家畜診療所、農協、人工授精師、市が一体となり、総合的

な治療と人工授精を行っています。

この結果、現在までに入牧した45頭のうち20頭がすでに受胎し、入牧してから約3カ月後には退牧しています。

今では、このことが不受胎に悩んでいる農家の中で評判となり、入牧希望が増加しているところです。

当市としても、これらの要望に応えるため、平成6年度には、常時40頭近くの受け入れができるよう、現施設（収容能力25頭）の増設を計画しているところです。

地域ぐるみでの肉用牛肥育対策事業への取り組み

東諸県郡は、昭和58年当時、郡内保留率22%（県内44%）で県内でも低い水準となっていました。

そこで、昭和58年度から東諸県郡畜連が事業主体となり、地域内一貫生産体制の確立を目指して、東諸県肉用牛肥育対策事業をスタートさせました。

事業の内容は、畜連が郡内の3町、3農協、子牛生産農家、肥育農家（平成5年10月から事業参加）の積立により造成された基金を運用して、肥育素牛購入代金として肥育農家に無利子で貸付けるもので、具体的には以下のとおりです。まず、基金造成については、①農協は事業開始年度から5年間で250,000千円を基金として畜連に積み立てます。②町は250,000千円の1/2の125,000千円について5年間の利息相当分を農協に助成します。③子牛生産農家は平成15年まで子牛販売代金から1頭1万円を畜連に積み立てます。④肥育農家は同じく平成15年まで本事業で導入した肉牛の販売代金から去勢牛5万円、雌牛3万円を畜連に積み立てます。以上の基金を運用して、肥育農家は1頭当たり50万円を限度として、畜連から素畜導入費として無利子資金の融資を受け、対象肥育牛は、農協を通じて販売した後、販売代金から素牛代金を畜連に支払うものです。本事業により過去10年間で4,209頭が導入され、平成4年度の郡内保留率は58%まで向上しています。



未来の肉用牛経営をめざして

簡易肉用子牛の自動給餌器について

子牛の下痢は、子牛の発育を阻害するとともに死亡事故の大きな原因になっています。

しかしながら、これの絶対的な防止対策がないため、生産現場では苦悩の声が絶えないのが現状です。

ところが、日常の飼養管理の中で、極力下痢の発生を防止するとともに、子牛に出来るだけ良質粗飼料を食わせ込む、いわば一石二鳥の効果を狙った「給餌器」(図参照)を工夫・考案し、これを数年前から使用し、非常に良い成績をあげている繁殖專業農家があります。

この方は、全国肉用牛協会主催の平成4年度肉用牛経営発表大会で農林水産大臣賞を受賞された児湯郡新富町の松本愿さんです。

松本さんは本器の使用効果について、

1. 有合わせの材料で簡単に安く作れること
2. 食いこぼしがなくなり敷草等の拾い食いも少ないので、下痢が1/2～1/3に減少したこと
3. 連れ食い(競争食)により哺育・育成の成績が良くなったこと

(図-1) 給餌器の寸法図 (図-2) 同断面図

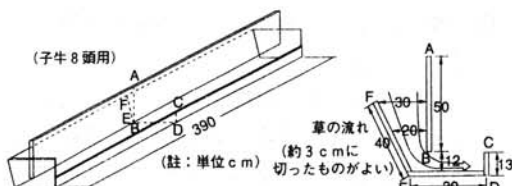


表-1 3カ月離乳と人工哺育の発育比較

	性別	頭数	生時体重	哺育期間	出荷体重	期間DG
3カ月離乳	♂	22	29.4±2.7	116.5±19.3	108.3±14.5	0.67±0.13
	♀	14	28.3±4.4	125.7±18.5	98.3±12.3	0.59±0.13
3日離乳	♂	12	28.9±4.8	117.4±23.7	107.5±8.5	0.70±0.15
	♀	12	28.2±3.2	112.3±13.0	101.5±7.3	0.68±0.08

等をあげています。

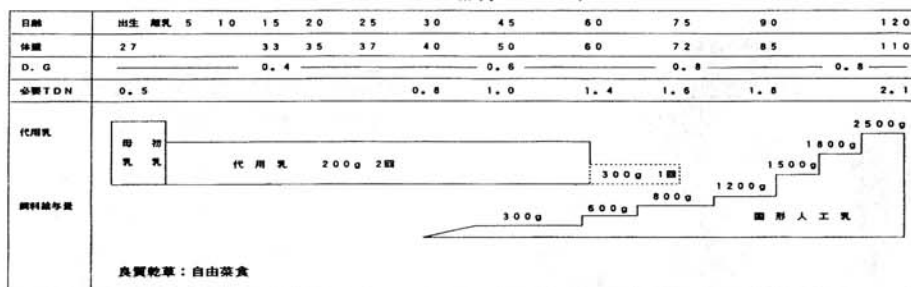
延岡農協の一産取り肥育と人工哺育に対する新しい取り組み

延岡農協では、肉用牛農家の所得安定、組織の育成を図るため、一産取り肥育を取り入れた地域一貫生産システムを整備しています。

しかしながら、一産取り肥育は、①分娩時の事故が多いこと、②哺育が難しいこと、③仕上りが遅れること等の問題点があります。

延岡農協でも、一産取りを担当する農家段階で子牛に下痢が発生し、農家の成績にバラツキがみられる状況でした。そこで、一産取り農家に人工哺育技術を導入することにしました。また、F1子牛や乳牛の腹を借りて受精卵移植で生れた和牛子牛にもこの技術を応用しました。その結果、人工哺育技術を実施した農家の成績はすこぶる良好でした。一般的に、子牛の発育は母牛の泌乳能力に影響を受けると言われていますが、人工哺育の場合、代用乳の給与量が一定のため、子牛の発育も揃っています。さらに、早くから固形物を摂取することから、消化器がよく発達し、肥育期間の飼料摂取が良く、早く仕上がる傾向があるようです。また、母牛の方も当初35カ月齢での出荷を予定していましたが、哺育期間の短縮により30カ月齢での出荷が可能となっています。哺育期間中の経費は子牛のミルク代として5千円ほど必要ですが、母牛の飼料費に比べると安いものです。現在、延岡農協では、450頭の一産取り肥育雌牛と300頭の子牛が飼養されており、うち150頭が人工哺育で育っています。ほとんどの子牛が人工哺育で育つ日も近いかも知れません。

図-1 人工哺育マニュアル



■ 今月の飼養管理ポイント ■

硝酸塩中毒の予防対策

「硝酸塩中毒」とは、反芻動物が硝酸塩を大量に含んだ飼料や水を摂取することにより急死する病気で、日本では1960年頃から発生しています。牛が硝酸塩を大量に含んだ飼料を採食することにより、硝酸塩が第一胃内の微生物によって還元されて亜硝酸塩→ヒドロキシルアミン→アンモニアと変化します。このアンモニアは、微生物の体を作るのに利用されますが、亜硝酸塩とヒドロキシルアミンは、大量に生成されると胃壁から吸収されて血液中に入り、酸素の運搬能力を低下させ牛を窒息死に至らせます。

この「硝酸塩中毒」の原因となる植物としてはソルゴー、イタリアンライグラス、青刈りとうもろこし、ライ麦、エン麦、大根の葉、ビート、カブ、ナタネ、アオビユなどがあります。これらは窒素肥料による増収が可能な草種で未成熟な植物ほど硝酸塩含量が高くなっています。植物の部位によっても硝酸塩の含量が違い、茎に最も多く、葉、実の順に少

くなります。また窒素肥料や未成熟の糞尿肥料を大量散布して、干ばつ後の降雨などにより植物中の硝酸塩含量は増加します。その他家畜の排泄物や汚物が混入した水の中にも硝酸塩含量の多いものがあるので注意が必要です。

予防法としては、①施肥に注意して硝酸塩含量の少ない飼料作物を作り、硝酸塩の多い飼料の場合は、少量に分割し制限して給与するのが良いでしょう。またサイレージにすると発酵過程で亜硝酸ガスとなり硝酸塩含量は低下します。②分娩前後や泌乳初期には硝酸塩含量の多い飼料の給与は避けましょう。③高エネルギー飼料を与えると、亜硝酸からアンモニアへの変化が促進されるので予防効果があります。逆に尿素添加飼料の同時給与は危険なので避けましょう。④硝酸塩の多い飼料ではビタミンAの欠乏を起こしやすいのでビタミンAを添加する必要があります。

以上のポイントに十分気を付けて、大事な牛を硝酸塩中毒から守りましょう。

● ??? おたずねします ??? ●

問

肥育牛でよく「ズル」という言葉を聞きますが「ズル」とはどんな状態を言うのですか、また、それは何が関係しているのですか。

通称「ズル」とは、獣医学的には「筋間水腫」といい、何らかの原因で水分が皮下脂肪

や筋肉内脂肪に溜まるものです。こうなると、肉が水っぽくなり食肉としての価値はなくなってしまいます。

その原因は、まだ解明はされていません。ただビタミンA欠乏症（視覚障害、浮腫）が出ている農家や牛に多発しているという調査結果が報告されています。また最近では遺伝的なものも絡んでいるという説まで出ており、この問題はますます複雑になっています。例

牧場まつり

さくらの牧場で楽しい1日を!

乳しぼり体験、ふれあい牧場、ウォークラリー、花の遊覧車、牛肉の試食、畜産物の展示販売等を行う牧場まつりが開催されます。どうぞ楽しい体験をして下さい。

とき 平成6年3月26日(土)~27日(日)

ところ 西諸県郡高原町大字広原5066
宮崎県畜産試験場(高原駅下車徒歩15分)

一服放談

毛を考える

牛の被毛は体の全表面に密生して身体を保護するという重大な役割を担っているが、人の毛はどうであろうか、人の毛は重要な部分には局部的に密生するのが特徴で、頭毛は脳髄を保護し、眉毛や睫(まつげ)は目に異物の進入するのを防ぎ、腋毛(わきげ)は腋の下の摩擦を少なくする役目があるようだ。

また、胸毛は男らしさを表現する第二次性徴であって、胸毛が女性の肉体に接触すると

女性はホルモンの分泌が異様に高まるという。では、少し下って陰毛について考えてみよう。「女性の陰毛は何のために生えているか」についてのささやかな自己流アンケート調査によると、第1位が毛で穴を隠すため、第2位溝の部分は軟かいので特に保護する必要があるから、第3位、摩擦を防ぐため(摩擦は歩く時のほかに、異性との肉体摩擦が非常に重要)、第4位オアシスが乾かないように森の役目をする、第5位ゴミが落ち込むのを防ぐための順であったが、例外として刷毛(はけ)の代りをするため、というのがあった。この理由はお産のとき、出口を通過する赤ちゃんの顔を毛が撫でてやり、汚物を拭きとる役目をするというのである。

それにしてもよほど長い毛が多量に密生していないと赤ちゃんの顔を掃除することは不可能に近いと思うんじゃがのう——?

(頓珍漢)

編集後記

平成6年2月24日宮崎県肉用牛振興大会が約2,000名の生産者の参加のもとに宮崎市民会館で盛大に開催され多大な感銘を受けました。肉用牛生産者一同の団結とその力を発揮して経営の安定化に努めましょう。